

世界に誇れる、ものづくり

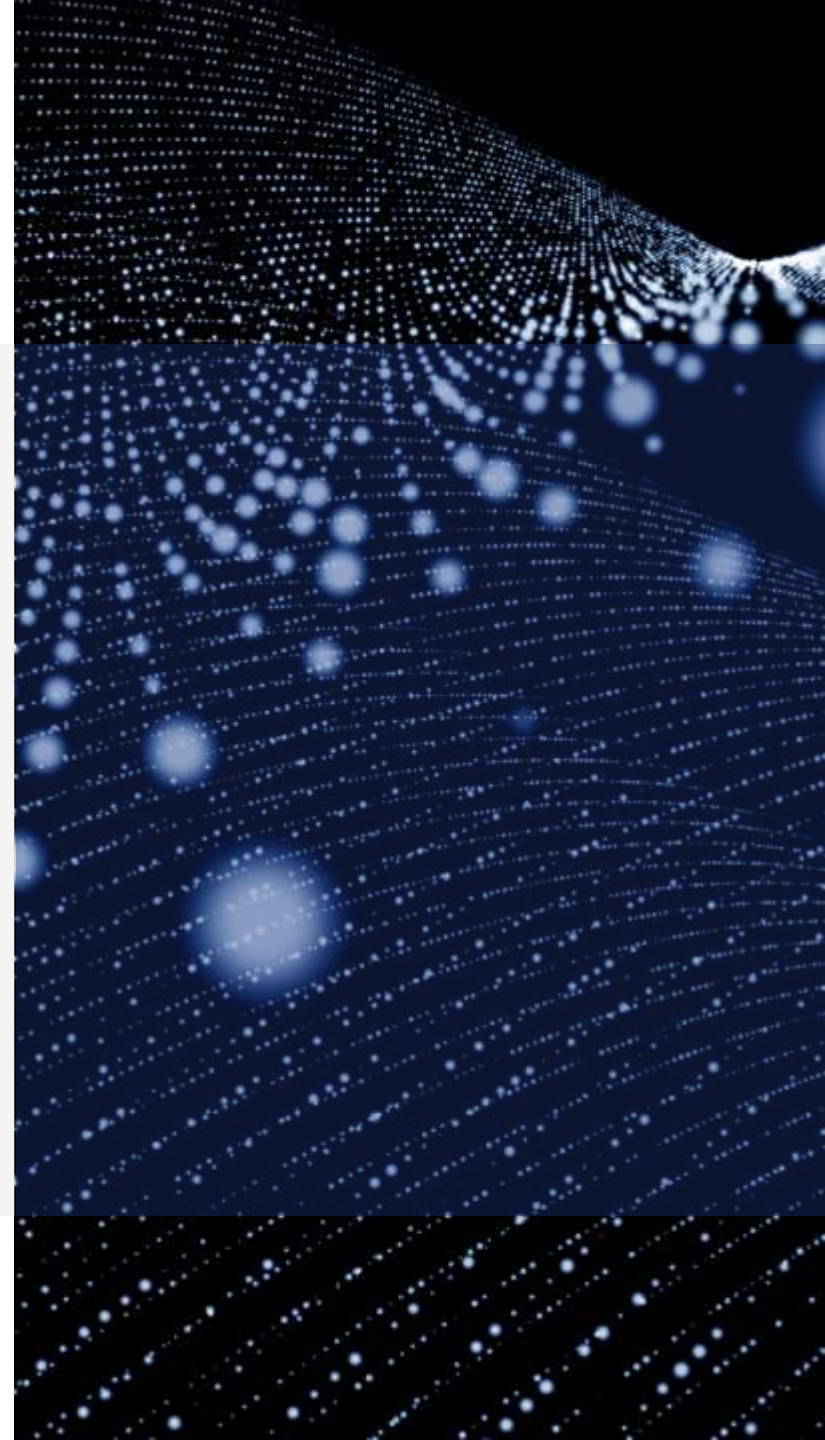
2022年12月期第2四半期 決算説明会資料

湖北工業はアルミ電解コンデンサ用リード端子と
海底光通信用部品のリーディングカンパニーです

湖北工業株式会社
2022年8月

目次

- I. 2022年12月期2Q（累計） 決算概況 …… P. 2
- II. 2022年12月期 業績見通し …………… P. 16



I. 2022年12月期2Q(累計)決算概況

2022年12月期(2Q)のハイライト

● 業績

- ・海底ケーブル関連の堅調な需要を背景に、売上高は前年比13.7%増の79.5億円
当期純利益は前年比21.9%増の18.1億円、いずれも過去最高となった

● セグメント別の概況

- ・リード端子： 車載向けは堅調ながらマクロ経済の悪化により数量ベースでは前年同期比並みに留まった
営業利益は、価格転嫁の時期ずれにより36.4%の大幅減益
- ・光部品・デバイス： 海底ケーブル市場の着実な成長を背景に、前年同期比9.0%の増収、同4.1%の増益
となった
多芯化に対応した小型高信頼性光アイソレータ「YD-4800」を発売

● 事業環境と当社の対応

《リード端子》

- ・製品需要を大きく後押しするEV化の潮流に変化なし
- ・上海ロックダウンに伴う物流の混乱に対して、生産・物流の影響の最小化を図るとともに、マレーシア拠点における生産能力増強及び品質改善の新設備を導入
- ・原材料高騰に対しては生産効率の改善に注力

《光部品・デバイス》

- ・製品需要を大きく後押しするデータ通信量拡大の潮流に変化なし
- ・スリランカ政治・経済の混乱には大きな影響を受けず生産活動を維持

損益計算書(2Q)の概要

(単位：百万円)

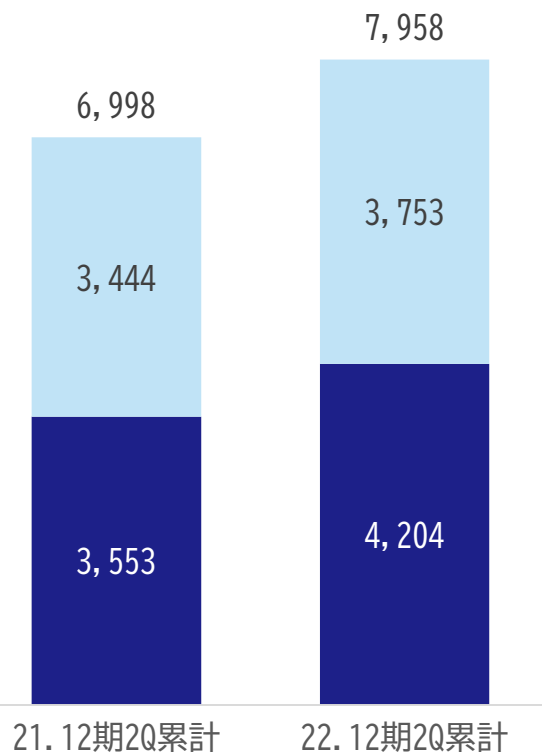
	2021.12期	2022.12期		2022.12期				
	2Q累計	2Q累計	前年同期比		1Q (1月-3月)	2Q (4月-6月)	直前四半期比	
売上高	6,998	7,958	+960	113.7%	3,954	4,004	+50	101.3%
リード端子事業	3,553	4,204	+651	118.3%	2,052	2,152	+99	104.8%
光部品・デバイス事業	3,444	3,753	+309	109.0%	1,901	1,852	-49	97.1%
営業利益	2,072	2,042	-30	98.6%	1,062	979	-83	92.2%
営業利益率	29.6%	25.7%	-3.9Pt	—	26.9%	24.5%	-2.4pt	—
経常利益	2,259	2,731	+472	120.9%	1,299	1,432	+133	110.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,490	1,817	+327	121.9%	886	930	+44	105.0%
為替レート (期中平均)	107.82円/\$	123.15円/\$			116.34円/\$	129.73円/\$		

※百万円未満切り捨て

セグメント別業績及び国内外売上高比率(2Q)

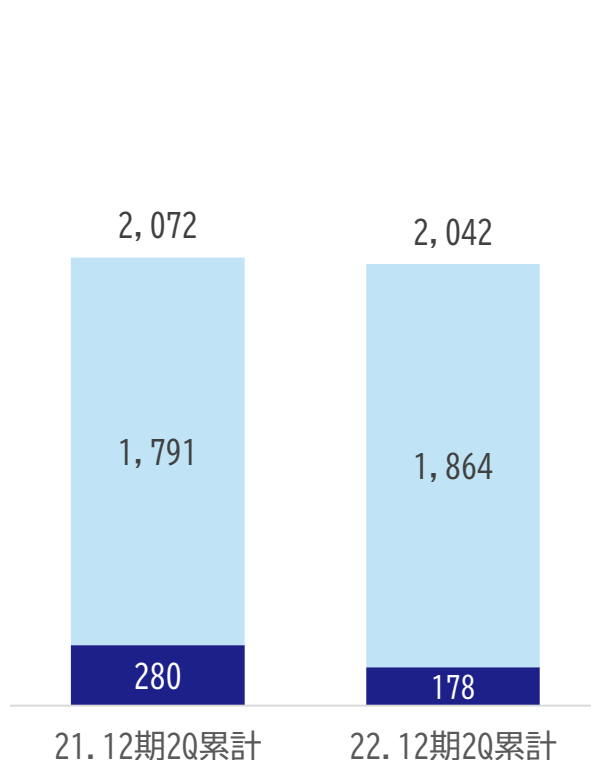
売上高 (百万円)

光部品・デバイス事業
リード端子事業



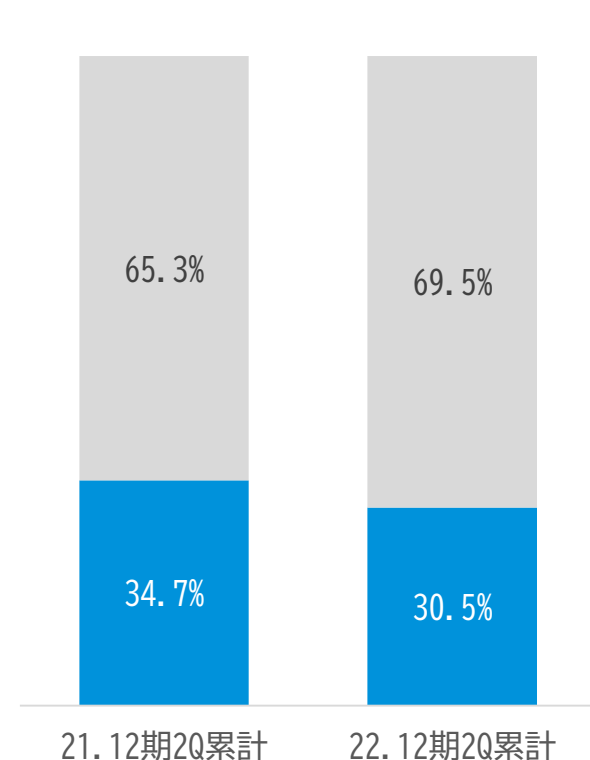
営業利益 (百万円)

光部品・デバイス事業
リード端子事業



国内外売上高比率

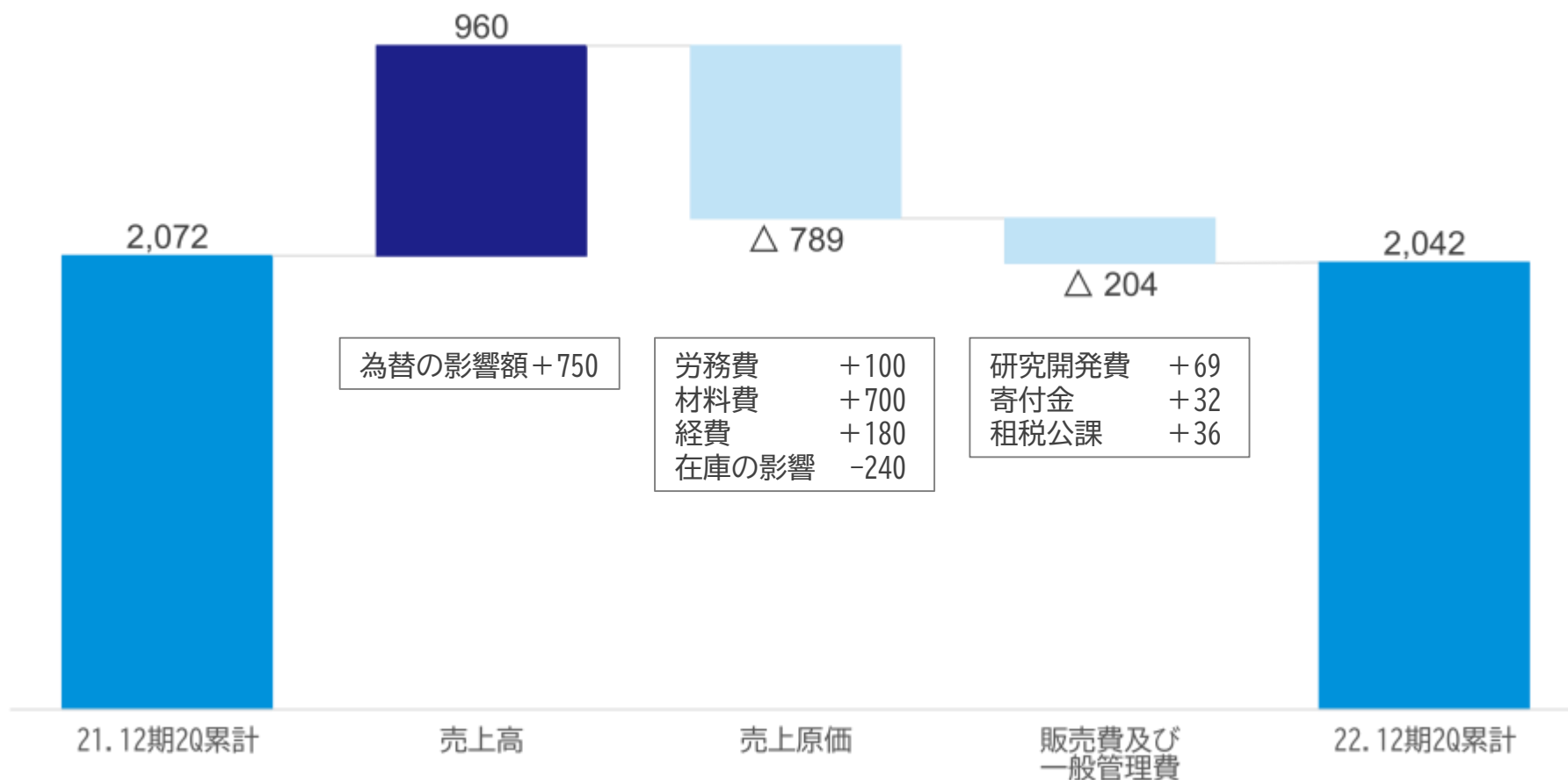
■ 日本 ■ 海外



営業利益(2Q)の増減要因

リード端子事業における原材料価格の高騰を吸収しきれず、同1.4%の微減益

(百万円)



セグメント別業績(2Q) - リード端子

原材料価格転嫁の時期ずれの影響により、営業利益は前年同期比36.4%の減益
 価格フォーミュラによる原材料価格上昇の転嫁率は、おおよそ4割に留まった

(単位：百万円)

	2021.12期		2022.12期		2022.12期		
	2Q累計	2Q累計	前年同期比	1Q (1月-3月)	2Q (4月-6月)	直前四半期比	
売上高	3,553	4,204	651 118.3%	2,052	2,151	99 104.8%	
営業利益	280	178	-102 63.6%	105	72	-33 68.2%	
営業利益率	7.9%	4.2%	-3.7pt	5.1%	3.4%	-1.8Pt	—

※百万円未満切り捨て

2022年12月期2Qの概況

● 製品市場動向

- ・ マクロ経済悪化により市場が低迷したものの、シェア拡大等により影響を最小限に留めた
- ・ 半導体不足による減産局面にあり、数量ベースでは前年同期比並みに留まる
- ・ 車載用ハイブリッドコンデンサ向けの売上が順調に増加

● 外部環境・リスクとその対応

- ・ 一部主要顧客で価格転嫁が遅れた影響が生じたが、今後は全社適用により材料価格変動リスクを低減(※)
- ・ 上海ロックダウンに伴う物流遅延や、主要顧客の労働力不足による生産減少が発生したが、当社への影響は軽微
- ・ マレーシア拠点における生産能力増強(5割増)及び新設備導入による生産の効率化

セグメント別業績(2Q) - 光部品・デバイス

海底ケーブル用光デバイスの堅調な需要により、前年同期比9.0%の増収を確保

(単位：百万円)

	2021.12期	2022.12期		2022.12期			
	2Q累計	2Q累計	前年同期比	1Q (1月-3月)	2Q (4月-6月)	直前四半期比	
売上高	3,444	3,753	309 109.0%	1,901	1,852	-49	97.4%
営業利益	1,791	1,864	73 104.1%	956	907	-49	94.8%
営業利益率	52.0%	49.7%	-2.3Pt	50.3%	49.0%	-1.3Pt	—

※百万円未満切り捨て

2022年12月期2Qの概況

- 製品市場動向
 - ・ 海底ケーブル用光アイソレータ等の光デバイスの需要は引き続き堅調
 - ・ 海底ケーブルの多芯化ニーズに応えた小型光アイソレータの販売開始
 - ・ 更なる多芯化を見据えた新製品開発を目的とした研究開発投資を増額継続
- 外部環境・リスクとその対応
 - ・ 主力生産拠点であるスリランカでの政治・経済の混乱による燃料・電力の供給不安が生じるも、燃料 確保、自家発電の活用により、高い稼働率を維持し納期遅延等は発生せず
 - ・ 在庫積み上げ等、リスク管理を強化

貸借対照表／キャッシュ・フロー計算書の概要(2Q)

(単位：百万円)

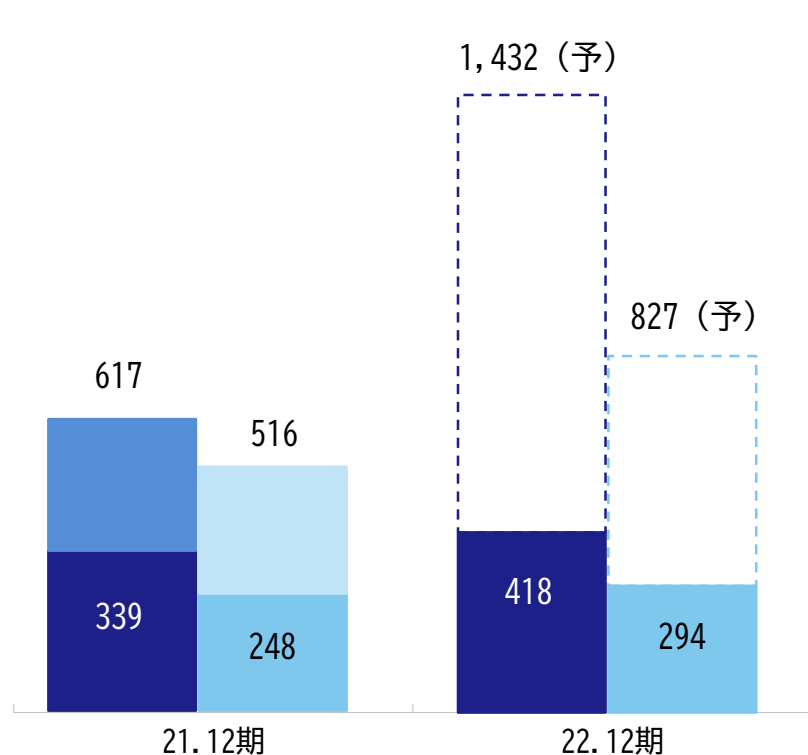
貸借対照表	21.12期末	22.12期2Q末	増減額	備考
流動資産	17,366	17,985	+619	受取手形及び売掛金 +343
固定資産	5,173	5,805	+632	有形固定資産 +570
資産合計	22,540	23,791	+1,251	
流動負債	5,313	4,801	△512	短期借入金 △301
固定負債	2,076	1,665	△411	長期借入金 △376
負債合計	7,390	6,466	△924	
純資産合計	15,149	17,324	+2,175	利益剰余金 +1,331
負債・純資産合計	22,540	23,791	+1,251	
キャッシュ・フロー計算書	21.12期2Q累計	22.12期2Q累計		備考
営業キャッシュ・フロー	889	1,197		
投資キャッシュ・フロー	△172	△553		有形固定資産の取得 △449
フリーキャッシュ・フロー	717	644		
財務キャッシュ・フロー	△804	△1,422		配当金の支払額 △485
現金及び現金同等物の増減額	62	△455		
現金及び現金同等物の期末残高	3,563	10,496		

設備投資・研究開発費(2Q)

設備投資は部品不足等を背景にやや停滞、研究開発投資は計画通りに実行

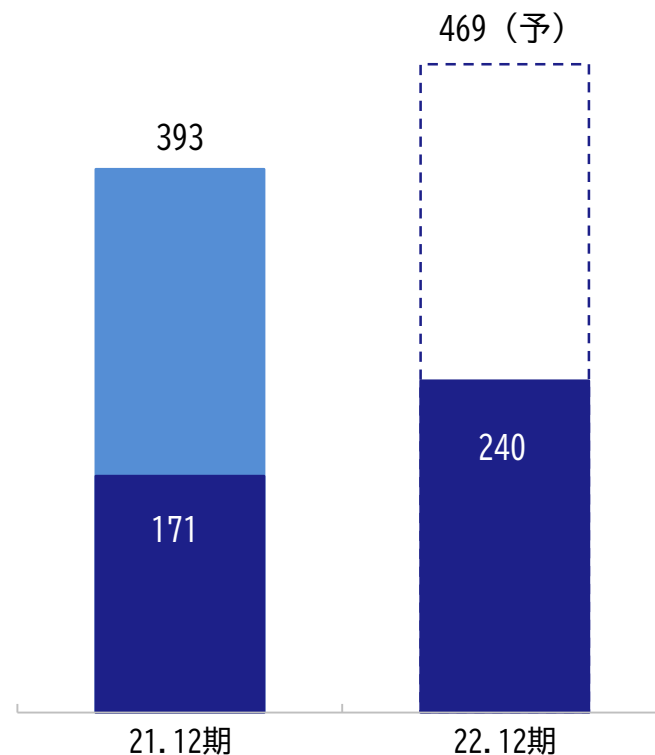
設備投資・減価償却費 (百万円)

設備投資額 ■通期 ■2Q累計
減価償却費 ■通期 ■2Q累計



研究開発費 (百万円)

■通期 ■2Q累計

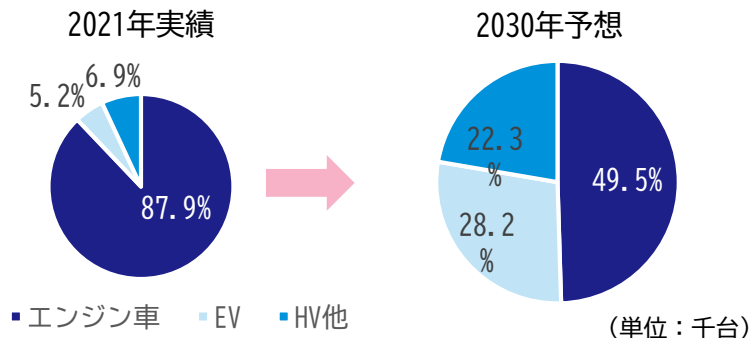


※研究開発費に振り替えた減価償却費を除く

トピックス - リード端子事業

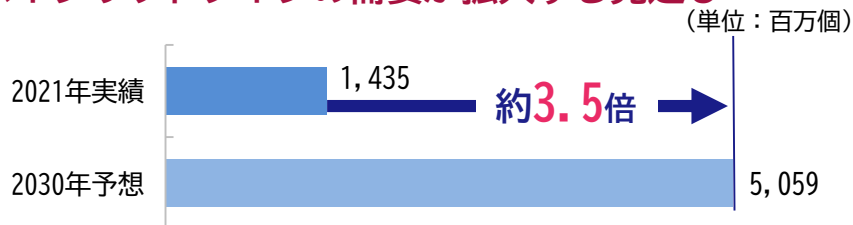
車載用アルミ電解コンデンサの市場展望

環境車へのシフトが確実視される



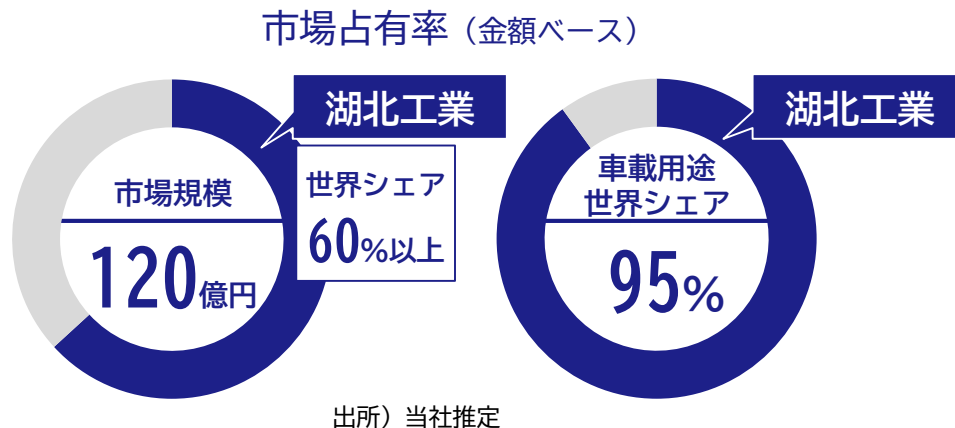
種別	2021年実績	2025年予想	2030年予想
エンジン車	68,830	66,470	51,500
EV	4,050	14,600	29,300
HV 他	5,430	11,390	23,200
合計	78,310	92,460	104,000

ハイブリッドタイプの需要が拡大する見通し



リード端子の競争環境

車載向けの95%を旗頭にシェアを更に拡大



マレーシア拠点の生産能力増強

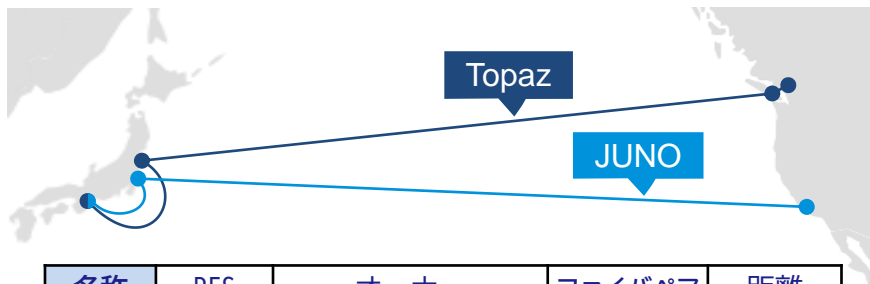


出所) 富士キメラ総研「アルミ電解コンデンサ ハイブリッドタイプ市場に関する調査 2022」

トピックス – 光部品・デバイス事業

長距離海底ケーブルプロジェクトの最新動向

太平洋横断プロジェクトの発表が相次ぐ



名称	RFS	オーナー	ファイバペア	距離
Topaz	2023年	Google	16	10,000 km
JUNO	2024年	Seren Juno Network (NTT、三井物産他)	20	10,000 km

弛まぬ研究開発

通信量増大に伴う更なる多芯化を見据え製品開発を継続

- マルチコアファイバ・ファンインファンアウトデバイス
- マルチコアファイバ・光アイソレータ
- 複合型光デバイス



マルチコアファイバ・ファンインファンアウトデバイス



マルチコアファイバ・光アイソレータ

新製品の投入 – 小型光アイソレータ

海底光中継器用「YD-4800」のリリース

【背景】「多芯化」のための小型化ニーズの高まり

【特徴】従来品と同性能で小型化(約49%)を実現

【販売開始】2022年5月

<イメージ画像>

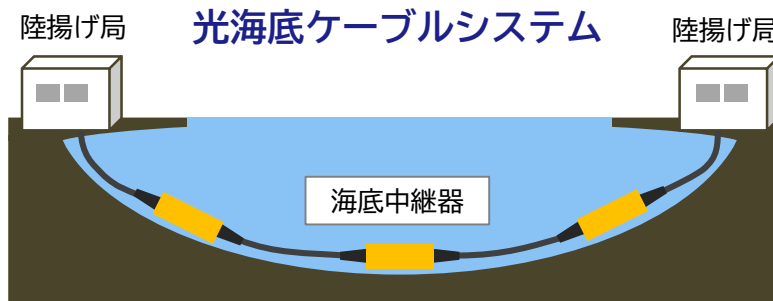


従来型 YD-4600



新製品 YD-4800

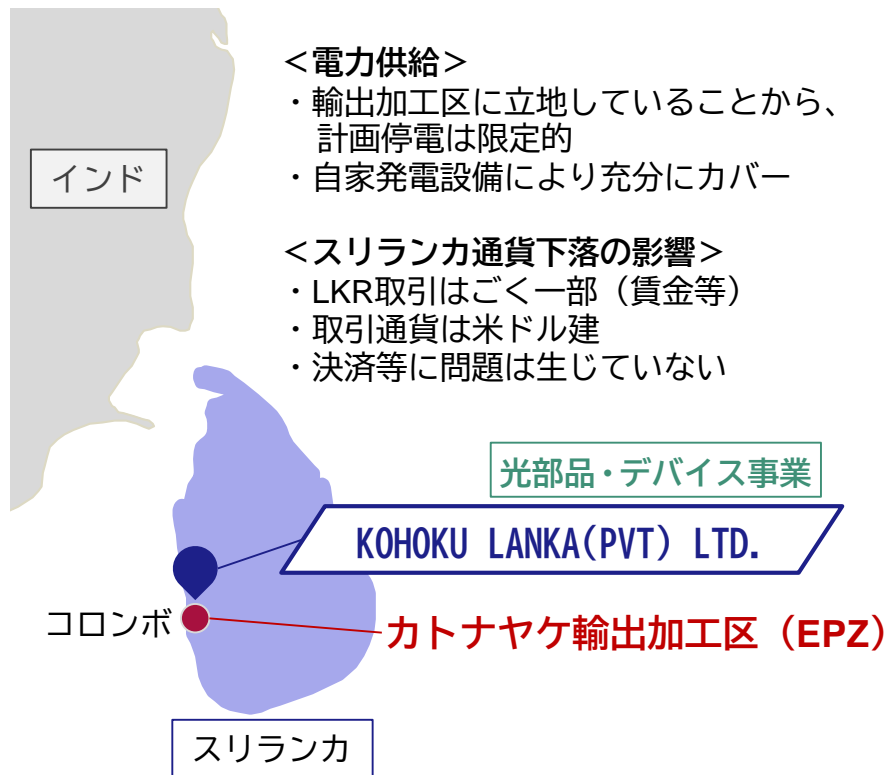
小型化
(1/2)



外部環境 – 地政学リスク

スリランカ政治・経済危機の影響

- ✓ デフォルトにより事実上の財政破綻
- ✓ 政権交代、ハイパーインフレ、電力不足が発生
- ✓ IMFに金融支援を要請
- ✓ **当社の生産・出荷にほぼ影響なし**



上海ロックダウンの影響

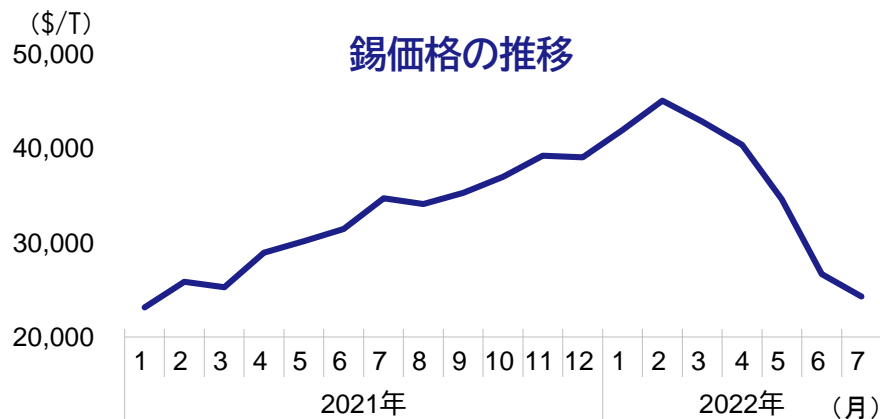
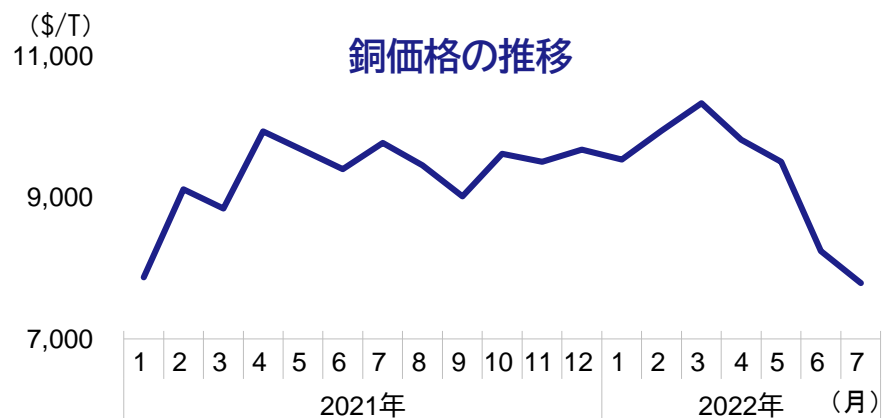
- ✓ コロナ禍の移動制限措置により物流が停滞
- ✓ 主要顧客(コンデンサメーカー)の工場において材料調達や労働力確保等が進まず稼働率が低下
- ✓ **当社の受注や出荷に徐々に影響**



外部環境 – 非鉄金属相場の動向

非鉄金属相場（LME）の推移

リード端子の原材料であるアルミニウム・銅・錫等の市場価格が3月に史上最高値に急騰するも、同月後半から下落局面に転じた



トピックス - ESG活動

事業活動を通じ、再生エネルギーによる電力発電、自動車の電気自動車化等の地球温暖化ガス排出削減の取り組みに貢献し、また、その排出削減を支える情報通信インフラである光ファイバ高速大容量通信網の整備・発展に貢献する

E

- 太陽光発電の導入、再生可能エネルギー由来電力購入



- 湿原（奥びわ湖・山門水源の森）の保全活動への支援

- 「しが生物多様性取組認証制度」における最高評価（3つ星）を認証



S

- 農業高校への奨学金プログラムによる支援



G

- コンプライアンス教育・研修の強化



Ⅱ. 2022年12月期 業績見通し

2022年12月期業績の見通し

各セグメントにおける堅調な需要を見込み、10.4%の増収、4.5%の営業増益を予想

(単位：百万円)

	2021年12月期	2022年12月期（期初計画）		
	実績	通期予想	対前期増減	前期比
売上高	14,620	16,144	+1,524	110.4%
営業利益	4,126	4,311	+185	104.5%
営業利益率	28.2%	26.7%	-1.5pt	—
経常利益	4,363	4,254	-109	97.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,960	3,034	+74	102.5%
1株当たり当期純利益（円）	406.72	343.61	<為替感応度> 売上高100百万円/円 営業利益30百万円/円	
為替レート（期中平均）	109円/\$	115円/\$		

※百万円未満切り捨て

● 業績予想の根拠

- ・ リード端子事業：EV化は進展するも、生産台数の回復には時間を要するものと想定
- ・ 光部品・デバイス事業：海底ケーブルの堅調な市場拡大を想定
- ・ 両事業ともに市場トレンドに変化はないものの、外部環境（アジア経済、為替・非鉄金属相場等）が不透明であるため、想定為替レートや通期業績予想は据え置き

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
それら将来の計画や予想数値などは、入手可能な情報をもとに、当社が計
画・予測したものであります。実際の業績などは、様々な条件・要素によ
りこの計画や予想数値とは異なる結果になることがあります。この資料は
その実現を確約したり、保証するものではありません。

湖北工業株式会社 IR担当

E-mail ir@kohokukogyo.co.jp

TEL 0749(85)3211 FAX 0749(85)3217